

平成 29 年度 第 2 回いわき市保幼小連携協議会議事録

1. 開催日時

平成 30 年 2 月 14 日（水） 午後 2 時 0 分から午後 3 時 30 分

2. 開催場所

いわき市文化センター 2 階 第 2 会議室

3. 出席者

(1) いわき市保幼小連携協議会委員（11 名のうち 10 名出席）

齋藤政子委員、鈴木美枝子委員、宮内隆光委員、新妻英昭委員、後藤幸一委員、吉村昭一郎委員、安島久恵委員、高萩有子委員、柳沼広美委員、本田和弘委員

(2) 事務局（10 名）

こどもみらい部： 山田次長兼総合調整担当

こども支援課： 志賀課長、中村主幹兼課長補佐、野崎保育・教育係長、雨澤指導保育技師、阿部指導教諭、鯨岡主査、草野主事

学校教育課： 塚本課長

子育てサポートセンター： 永山次長

4. 報告事項

(1) いわき市保幼小連携プログラム策定ワーキングチームの設置について

5. 協議事項

(1) 保幼小連携プログラムについて

(2) 本市における保幼小連携の現状について

6. その他

(1) 保幼小連携に係る調査の実施について

(2) その他

7. 会議の運営について

(1) 会議開催形式

本日の会議を公開することについて、情報公開等の観点から特に支障が生じる事由がないことを確認した。

議事録の作成については、議事に直接関係する発言又は説明内容のみを記録し、委員名を記録しない「要点筆記方式」で作成することとした。

(2) 議事署名人

会長の指名により、新妻英昭委員、後藤幸一委員の2名を選出した。

8. 発言内容

① 報告事項

(1) いわき市保幼小連携プログラム策定ワーキングチームの設置について(資料1～2)

発言者	発言内容
会長	「3 報告事項 (1) いわき市保幼小連携プログラム策定ワーキングチームの設置について」事務局からの説明を求める。
事務局	会議資料(P1)に基づき説明(こども支援課:野崎保育・教育係長)
会長	説明内容に対し、何か意見・質問があれば発言願いたい。
A委員	保幼小連携プログラム策定ワーキングチームではどのような内容の意見交換が行われたのか。 保幼小連携に係る調査とはどのようなものを実施する予定か。
事務局	第1回及び第2回保幼小連携プログラム策定ワーキングチームでの意見交換の主な内容については、別冊資料「第1回・第2回ワーキングチームでの意見交換要旨」のとおり。 保幼小連携に係る調査については、「5 その他 (1) 保幼小連携に係る調査の実施について」で詳しく説明する。 第2回保幼小連携プログラム策定ワーキングチームにおいて、本プログラムの作成にあたって必要となる考え方や、プログラム作成の手順・手法等について齋藤会長より助言いただいた。当協議会においても相互理解を図るため、齋藤会長の方から本プログラム作成にあたって必要となる考え方などについて

	<p>て、お話しいただきたいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>「遊びっこ学びっこ」に基づき説明</p> <p>学級経営が成り立たない状態が続くと「学級崩壊」となるが、文部科学省の研究によると学級崩壊は主に5、6年生に多い。要因や実態から考えて、小1プロブレムは、イコール学級崩壊ではない。</p> <p>小1プロブレムが発生する理由として、家庭におけるしつけが十分でない、自己コントロールする力が身につけていない、発達障がいをもつ児童への対応が困難など地域や家庭の教育力の低下があるとされている。</p> <p>家庭や保育園、幼稚園等で育てていくべき自制心の形成、自己肯定感、子ども自身が考えて行動する主体的に生きる力を育ててきていなかったことが、小学校の最初の段階で出てきているのではないかと考えられる。</p> <p>「なめらかな接続」「異年齢交流」「大人と組織の連携」が幼児期教育と小学校教育の接続において保幼小連携の三つの柱になる。幼保小で交流が進む中でそれぞれのカリキュラムが策定されていき、交流の中で子どもたちが変化していく。</p> <p>保・幼と小学校では環境に対する考え方が異なっている。小学校では、教育の大舞台は授業であり、集中できるように配慮するなどの工夫をするのが環境。保・幼では環境に子どもたちが主体的にかかわることで変わっていく。保幼小で環境に対するそれぞれの考え方の理解を深めることも必要。</p> <p>小学校では到達目標がおかれているが、保・幼は個人差や発達差が大きく、到達目標を一律におくことになじまないため、方向目標を掲げている。</p> <p>発達のプロセスについて保幼小それぞれの背景や経緯を理解し、共通認識を持つことがカリキュラムの策定に重要。</p> <p>また、保幼小連携プログラムの策定は必要に迫られての策定であったが、学びの連続性のために連携が求められていることを念頭に置くべきである。</p> <p>何か意見・質問があれば発言願いたい。 特にないようなので次に移る。</p>

② 協議事項

(1) 保幼小連携プログラムについて（資料3～6）

発言者	発言内容
会長	「(1) 保幼小連携プログラムについて」事務局からの説明を求める。
事務局	会議資料（P3）に基づき説明（こども支援課：野崎保育・教育係長）
会長	説明内容に対し、何か意見・質問があれば発言願いたい。
B委員	市の小1プロブレムの現状は調査予定か。
C委員	<p>現在の小1プロブレムとしては、通常学級で発達障がいの児童が生活する際に担任の教諭が対応しきれず、周囲の児童がそれに引きずられるというものが多い。昔とは様相が変わっている。</p> <p>発達障がいの児童に対しては、補助やケアの人員が増えれば改善するかもしれない。</p>
事務局	いわき市の小1プロブレムの現状についての調査は未実施。今後調査を検討したい。
B委員	<p>困っている子どもをどうつなぐか。現状をまず把握することが重要。</p> <p>しかし、子どもを理解するために幼稚園の先生が何度も小学校に呼び出されるのは現場の負担が増える。</p>
会長	学びの連続性を確保することが重要。幼児期の学びが児童期のどのような学びにつながっていくか双方が理解する必要がある。
D委員	いわき市の幼児教育の柱と保育指針・指導要領の「10の姿」はどのように関連付けるか。

事務局	日野市は、現状どのような幼児教育が行われているかをまず整理したところ、基盤となる6本の柱が出てきた。いわき市も実際にどのような幼児教育が現状として行われているか整理し、基盤を見出すこととしたい。
D委員	保育指針・指導要領と市の幼児教育の基盤に整合性がないと現場が困る。「10の姿」と関連付ける必要性はあると考える。
事務局	まずは、市内で実際に行われている幼児教育のベースを見出す作業を実施したいと考えている。
会長	いわき市の公立・私立、保・幼・小の子ども像から出発してまとめていく中で「10の姿」にどうつながるか見えてくるということ。
D委員	養成校の卒業生が就職したときに混乱しないように「10の姿」との関連を見える形にしてほしい。
E委員	コアカリキュラムの実践で日野市の子どもたちはどのように変わったか。
会長	<p>4点ある。</p> <p>① 小学校のスタートカリキュラムが実践と改善の繰り返りで豊かになった。</p> <p>② 保幼小の連携が組織として進んだ。</p> <p>③ 特別支援教育の理解が深まった。</p> <p>④ 保幼小の教職員同士の理解が深まった。</p> <p>特別な支援が必要な子どもは増加しているので、支援体制の構築は重要であり、理解が深まったのはよいこと。また、年4～5回ほど5歳児担任と小学1年生担任の全員が出席する合同研修を実施していることが相互理解の深化につながったと思う。</p>
E委員	カリキュラムの内容も大事だが、保幼小で共通理解を深めることがベースとして重要であると感じる。

--	--

(2) 本市における保幼小連携の現状について（資料7）

発言者	発言内容
会長	「(2) いわき市保幼小連携プログラムの策定について」事務局からの説明を求める。
事務局	会議資料（P11）に基づき説明（こども支援課：野崎保育・教育係長）
会長	説明内容に対し、何か意見・質問があれば発言願いたい。
B委員	「いわきっ子入学支援会議」とはどのようなものか。 また、保育所（園）・幼稚園が作成した要録は小学校でどのように扱われているか。
事務局	まず、発達に障がいのある子について「いわきっ子入学支援シート」を作成してもらおう。その後、保育所・幼稚園との引き継ぎや関係機関との連携を図るために開催するのが「いわきっ子入学支援会議」である。
C委員	要録については、小学校に3月末に届く。そのころには学級編成や学級経営方針も固まっており、要録の内容を反映させることは難しい。要録は活用しきれていないのが現状。 就学时健康診断の際に入学支援シートが届けば、子どもに配慮した学級編成ができると思う。
B委員	要録といわきっ子入学支援シートはどちらも作成する必要があるのか。 いわきっ子入学支援シートは必ず保護者の目に触れるので、はっきりしたことが書けない。つながっていく支援は今後必要になっていく。
F委員	保・幼・小の連携に係る取組みについては、いわき市が広域であることを念頭に置く必要がある。相互の交流が、立地上、難しい地域もある。

A委員	子どもによっては、普通学級でなく特別支援学級に進んだ方がその子の将来のためになるという情報提供やアプローチを保護者に対して保育所・幼稚園から行う必要がある。特別な支援が必要な子の保護者に対して、実際にどのようなアプローチをしているか知りたい。
事務局	特別な配慮が必要な子に対して、子どもの姿を通して、保育者や保護者が協力し合って個別の支援計画を立てているが、実施率は高くない。保護者の障がいに対する受容や理解を得ることが難しいのが現状。丁寧に保護者との関係を築いていくよう努めたい。

⑤ その他

(1) 保幼小連携に係る調査の実施について（資料8）

発言者	発言内容
会長	「(1) 保幼小連携に係る調査の実施について」事務局からの説明を求める。
事務局	会議資料（P12）に基づき説明（こども支援課：野崎保育・教育係長）
会長	説明内容に対し、何か意見・質問があれば発言願いたい。
B委員	調査はどのくらいもボリュームのものを想定しているか。
事務局	現在調整中ではあるが、現場にあまり負担がなく、書きやすいものとしたい。
D委員	いわき市はシングル家庭が多い。保育所（園）・幼稚園から保護者への支援について実際に困った事例などを記載する項目を入れると、現状把握に役立つのではないか。幼児期の家庭環境は重要と考える。
A委員	生活保護世帯も多い。いわき市の現況を踏まえた調査の実施

	<p>を望む。</p> <p>保育所・幼稚園から保護者への、子育てに関する講演や助言等、情報提供のアプローチ実績も知りたい。</p>
C委員	<p>小学校の中には、20以上の保育所・幼稚園から集まって入学してくるところもある。</p> <p>誰もが共通して歩んでいけるコアカリキュラムの作成に役立つような調査の実施を望む。</p>
事務局	<p>貴重なご意見として、参考とさせていただきたい。</p>

(2) その他

発言者	発言内容
会長	<p>「(2) その他」について事務局で何かあれば発言願いたい。</p>
事務局	<p>第3回保幼小連携協議会の日程について6月を提案。(こども支援課：野崎保育・教育係長)</p>
会長	<p>事務局の提案に対し、何か意見・質問があれば発言願いたい。</p> <p>特になければ、以上で本日の議事のすべてを終了する。</p> <p>以上をもって、私の本日の議長の任を解かせていただく。</p> <p>皆様の御協力ありがとうございました。</p>